

## < 買い物行動が高齢者の健康状態に与える影響についての縦断的研究 >

研究年度 令和 3年度

研究期間 3年度

研究代表者名 竹内昌平

### 研究の目的

「買い物環境」と呼ばれる生鮮食料品店やファストフード店などの生活に密接している店舗の有無が、住民の食生活、栄養素摂取量、健康状態に影響することに注目が集まってきている。その中で、携帯電話の位置情報を利用し、個人情報を用いたビッグデータとして活用する研究は徐々に進んできたが、実際に生活している個人に着目し、買い物行動を含む個人の移動を追跡し、個人情報を含めた詳細な分析を行う研究はほとんどない。

研究代表者は、小規模コホート研究として、買い物環境と買い物行動を含む生活行動圏に関する縦断的な研究を続けており、高齢者の生活行動の範囲に上限がある可能性や買い物先を選ぶ理由などを明らかにしてきた。

昨年は、COVID-19の流行のため、買い物行動と行動変容について確認したが、生活において必須である買い物行動に変化は少なかった。

本研究では、今年度も対象者を追跡調査し、買い物環境および買い物行動における移動距離の経年的な変化および買い物行動を含む運動量を確認していくことで、高齢者の運動と健康の関連を調べ、高齢者の将来的な健康に貢献することを目的としている。

### 研究実施について

上記、研究目的に合わせ、今年度も調査を企画、準備してきたが、対象者が高齢であること、および COVID-19 の流行が過去最大となり、対象者の感染防御に対して、万全の保証ができないことから、今年度は、調査を断念することとなったため、昨年度の調査結果の報告のみ行った。

昨年度までの結果を活かすためにも、今後も調査を継続し、高齢者の健康状態に対し、買い物行動を含む生活行動がどのように影響を与えるかを確認していきたい。